
噂話

飯島 唯

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

噂話

【コード】

N0307L

【作者名】

飯島 唯

【あらすじ】

学校の七不思議、全て知れば何かが起こる。

死ぬらしいぞ。

どうだ？俺と一緒に七不思議を見ないかあ？

七不思議じゃなくてもいいんだ・噂話・本当かどうか知りたくないかあ？

どうだ？俺と一緒に見つけ出さないか？

「真実」ってやつをさ。

一話 じっくりさん(前書き)

週1ペースで・・・

というか、ネタがあったら投稿という感じで

一話 じつくりさん

七不思議とはなんだ？

七個の不思議だ。

じゃあ何故、全てを知ったら何かがおこるんだ？

ドラゴンボールでもあるまい・・

人は、7に惹かれていたのかもしれない。

7には不思議な力がある。それが七不思議か？

あながち間違いではあるまい？

いや・・・どうでもいいんだ。

俺は知りたい。

「真実」が、ね。

ベルがなりました。

はい皆さん席についてください。

私語は慎んでください。

はい、静まりました。

「先生は、今困っています。何故だかわかる人ー」

とある高校のとあるクラス、人数は34人。

なんの変哲もない普通の高校だ。

「・・・・・はい、わかる人はいませんね？」

そうだろう？人の困りごとなんて知るはずがない。

しかし、そこで諦めていいのか？

たった一つ知る方法がある。

生徒達は思った。

先生はそれを読み取ったのか、ある賭けにでてみた。

「では、時間をあげましょう。調べてみてください。」

生徒達は戸惑ったのか、がやがやと周りの人たちと話始めた。

「お、おい?」「あれやるか?」「いちいち説明きくのも面倒だし
やっちまうか?」「えー・・・でもいいの?」「いやダメだろ?」
「第一、しても大してかわんねー気がするぞ?」
「そうだよ」「かもな」「んじゃやめるか?」

(「考えているようですね。」)

さて、と先生は椅子に腰をおろしてクラスを見回した。
先生には困っていることがあったのだ。

これを解消するために、先生は賭けてみた。

しかし、これはいけないことなのだ。

だからクビ覚悟で賭けてみた。

「ち、めんでーやるぞー。先生ぜってーしってるから」

と一人の男子が、先生に聞こえることも構わず皆に言った。

皆は、男子の意見に賛成といったように頷く。

【皆さんの学校では知りませんが、僕の学校ではあることが流行
っていますね・・・これ、僕もしたことあるんですよね】

生徒達が、真ん中の席に集まる。

真ん中の席の子は、机からなにやら画用紙を出す。

その画用紙には“あ行”から“わ行”まで書かれていて、上のほう
には鳥居、右にYES 左にNO と書かれていた。

【もうわかんと思いますけど、これは「こっくりさん」です。立派な
降霊術なんですよ?だから面白半分でしちゃいけないんです】

真ん中の席の子から一番近い四人が誰かが出した10円玉に指を置
き、呪文のように言う。

「こつくりさん、こつくりさん おいでになられましたら返事をください。」（地域差があるのかも लेकिन、僕の学校はこんな感じだった）

先生はそれを見て、ニヤリと笑った。

（「本当にやるのか」）

すると、10円玉は動き出す。

ススス・・・と、誰かが動かしているように、スムーズにYESのほうへ動いていった。

・・・これは・・・。

先生は少し考えた。

しかし、答えはすぐにでた。

（「誰かが動かした。どちらにせよ、困っていることについて生徒達がわからなければ証明されること」）

「こつくりさん、こつくりさん 先生は何に困っているんですか？」

ずいぶん単刀直入だな

と先生はくすくす笑い始めた。

（「馬鹿馬鹿しい・・・」）

すると、10円玉はさつき同様スススと動き出した。

ん？と先生は立ち上がり生徒がやっている「こつくりさん」を見た。先生の背だと、立て生徒達の近くによれば見えるのだった。

せ、い、と、の、とスススとスムーズに動き出すのだ。

先生は目を見開いてそれを見る。

（「嘘だろ？」）

こ、つ、く、り、さ、ん、・・・
と・・・。

あたっている。

それを見ていた生徒の一人が先生に言った。

「先生、俺らのことについて悩んでいたんですか？」

先生は馬鹿な！！と、生徒達の群れをかきわけて・・・

“してはいけない”ことをした。

それは、必ずしてはいけないこと。

途中、四人のうち一人が先生のせいで指をはなしてしまったのだ。

・・・何があったか。

だれもしらない。

ただ、他の先生が「この世のものとは思えない絶叫」を聞いて来たときは、肉片と血の海だったという。

ひとついっておこう。

10円玉は“誰も”出していない。

そして、このクラスの生徒数は33人だ。

一話 じっくりさん(後書き)

最初は短編だったんですけど、短編じゃあ次話投稿できねー・・・なんか色々めんでえ・・・ということとで、連載にしました。

2話 じっくりさん(本編) (前書き)

続きみたいな感じですよ。
色々お願いします。

2話 こっくりさん（本編）

さて、七不思議。

これは一体なんだったんだろうか？

「こっくりさん」

これは、降霊術。

はたして、本当にこっくりさんはいるのだろうか？

いるかどうかはわからない。

それが、証明できないからオカルトなのだろう。

しかし、この話には謎がある。

生徒の数は最初34人と言っていた。

最後、本当の数を33人と言った。

どちらが本当なのか、まだわからない。

この、僕の学校の七不思議のうちの一つ「こっくりさん」少なくとも、これはオカルトではないと僕は思っている。

この、こっくりさん事件がおきたのは、どうやら1984年のことらしい。

これは、図書館で調べたことだ。

新聞にもものるほどの怪奇事件。

「クラス全滅。原因はこっくりさんか？」
とね。

そして謎はまだある。

10円玉だ。

一体だれが出した？ “誰もだしていない”と言っていた。

誰も出していない？なるほど・・・考え方はいろいろあるだろう

「最初っから出ていた。」

「生徒の数は34人だったが、なんらかのせいで一人減ってしまった。そして10円玉は最初っからあった。」

仮説にすぎないが、これは多分あっている。

そして、おかしな点はまだあるのだ。

生徒が先生の悩みについて知らないはずがない。

“こっくりさん”を使わなくともわかるのだ。

第一先生の悩みとはなんだ？噂話は先生視点からの話だ。だから聞き手はわかるはず。

先生の悩みとは「学校で問題になっているこっくりさん」だ。

普通なら生徒はわからないだろう。

予想はつくかもしれないが確信はできない。

この噂話にでてくる男子生徒の一声を覚えているだろうか？

「ち、めんでーやるぞー。先生ぜってーしってるから」

先生は何かを絶対にしっている。と生徒は確信している。

何かが指すものとは「こっくりさん」だろう。

少なくとも、この生徒は知っている。先生の悩みを。

だっておかしいだろ？

何故、「ぜってーしってるから」なんていきなりでるんだ？

つまりだ

この男子生徒が「こっくりさん」に加わって10円玉を誘導した。
そして、先生はこの男子生徒が自分の悩みを知っていることを知らない。

そこで、僕は決めた。

仮説を立ててみよう。

この、男子生徒が殺人犯だっという仮説をね。

これから、たてる仮説。

もしかしたら、僕の最後の文になってしまうかもしれない。

七不思議に近づくと「死」が待つ。

2話 じつくりさん（本編）（後書き）

本編は普通に本編です。

噂話を広げてみよう。って主人公（名前不明 後ででるかも？）に
言わせようと思ったけど止めました。

某少年週刊誌とかぶりますねw

今も、少しかぶってるかも・・・。

因みに、これ4話で1話みたいな感じですから、どうかお願いしま
す。

最初っから見なきゃ話には絶対についていけないと思っています。

質問などがあれば受け付けます。

感想は欲しいほうです・・・。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0307/>

噂話

2010年10月9日00時53分発行